



長野県 森林作業道 作設マニュアル

平成23年1月

長野県作業路作設マニュアル作成検討委員会編
監修：長野県林務部



III マニュアル作成にあたって

森林路網は、森林の多面的機能を持続的に発揮していくための基盤であるとともに、林業経営を支える基盤でもあります。

これからの森林路網の整備に当たっては、戦後、営々と造成されてきた人工林を中心に森林資源が成熟、充実する状況の中で、森林の多面的機能を持続的に発揮させつつ、生業としての林業に主眼を置き、路網を計画していくよう意識を切り替えていく必要があります。

林業の収益性向上のためには、生産性の向上による低コスト化が必要であり、そのためには路網と各種林業機械の合理的な組合せによる生産性の高い作業システムの構築が重要です。そして、作業システムを機能させていくための作業用の道と、木材の輸送コスト縮減のためトラックが走行可能な道とを一体的かつ有機的に整備し、合理的な路網を構築し、林業全体の生産性を向止させていくことが必要です。そのためには、整備する路網は、‘丈夫で簡易な、使いやすい’道づくりを適切かつ有効に行うことが必要となります。

今回、長野県森林整備加速化・林業再生協議会と長野県は、作業システムを機能させていくための作業用の道である「森林作業道」について、県内各地の実績、事例収集を行い、基本的な作設の工程と、工種・工法について取りまとめた「長野県森林作業道作設マニュアル」を作成しました。

日本アルプスが象徴するように、東西日本が合体する境にあって日本の中心に位置する長野県の複雑な地質・地形条件は、全国のまさに縮図であるといっても過言ではありません。‘丈夫で簡易な、使いやすい’道づくりにとって、画一的な作設方法では対応することができません。適切な判断と現場の工夫が求められます。本マニュアルは、様々な条件に適応する工種・工法を記載し、現場で活躍される技術者の皆さんが実施、また参考として利用していただける内容に取りまとめています。

昨年11月17日に制定された森林作業道作設指針によれば、今後、各都道府県では、地域に即した同様のマニュアル・指針を作成するよう定められています。本マニュアルは、かねてより準備、検討されてきたものではありませんが、このたび、はからずも全国のさきがけとして、長野県の地域特性を考慮して作設技術等を取りまとめたことはその意義も大きく、全国関係各位の理解と普及の一助となることを願うものです。

今後の長野県の森林・林業の発展、さらなる森林路網の構築のためにも、最新の事例や成果を取り入れた本マニュアルが実際の森林整備に生かされ、持続的な森林づくりの大きな原動力となることを願います。

平成23年1月

長野県作業路作設マニュアル作成検討委員会

委員長 酒井 秀夫

東京大学大学院農学生命科学研究科教授